

普及活動情勢報告（令和7年6月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

地域資源を有効活用！生姜生産者のコスト軽減を目指して ～竹チップと馬糞の堆肥試作～



5月19日、いの町八代堆肥センターで、いの町生姜生産研究会メンバー3名が参加し、放置竹林の竹材と競馬場の馬糞を有効活用して、生姜の生産コスト低減を目指した堆肥の試作を行いました。

堆肥作りに詳しい生産者から、発酵促進のために微生物資材を入れた方がよいのではないかとアドバイスをいただきました。しかし、馬糞の状態を確認した結果、今回は竹材と馬糞のみとし、農業改良普及課から提案した割合で配合しました。

農業改良普及課は今後も関係機関と連携して堆肥の管理を行い、ほ場試験に繋がられるよう支援していきます。

露地野菜をヨトウ類から守れ！ ～土佐市で発消長を調べる取組を開始～



5月23日、土佐市の5地点(新居、用石、波介、戸波、谷地)にハスモンヨトウ用のフェロモントラップを設置しました。

昨年は晩秋も気温が高く、露地ショウガやネギでは例年よりも長期間に渡りヨトウ類による被害が発生したことから、JAと農業改良普及課で発消長を確認するとともに農薬の感受性試験を実施することになりました。6月にはシロイチモジヨトウについてもトラップを設置します。

農業改良普及課ではJAとともに発消長に基づく防除指導を行うことで、露地品目でのヨトウ類被害の軽減に向けた活動を行っていきます。

担い手確保に向けて ～春野高校生に産地の紹介～



6月12日、県立春野高校で、担い手の確保を目的に高知県の農業を紹介する講座を開催し、受講を希望した生徒9名が参加しました。

農業改良普及課からは就農支援制度、JAからは土佐市ピーマン部会での取り組みや新規就農者の事例を紹介しました。

生徒からは「データを使うことで農業がしやすくなっていることが分かった」、「将来就農するときに思い出せる内容で学びになった」等の声がありました。

農業改良普及課では今後も関係機関と連携して、担い手の確保に取り組んでいきます。

次年度への飛躍を目指して！
～四万十町視察～



6月19日、農事組合法人上東の構成員など10名が四万十町にある農業生産法人四万十野菜に水稻の視察を行い、有機栽培による栽培管理、販売方法等について学びました。

農業改良普及課は、視察先との調整など視察が円滑に行えるようサポートし、慣行栽培においても雑草対策に課題があることから、雑草対策を中心に視察を行いました。

参加者からは、冬季湛水の期間やトロトロ層形成の条件などの質問があり、技術向上に対する意欲がうかがえました。

農業改良普及課は、視察研修で参加者が得た知識を活かせるよう、栽培技術の向上を支援していきます。